

特定非営利活動法人
エイズ孤児支援NGO・PLAS

PLAS POST

DECEMBER,
2022

2022



PLAS

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します



活動の御礼とご挨拶

みんなとつくる、アフリカの子どもたちの未来

2022年度もPLASの活動へ温かいご支援、応援をいただき心より御礼申し上げます。

2022年はロシアのウクライナ侵攻など混迷する世界を前に憤りを感じ、先行きの見えない社会に不安となるなど、激動の年でした。社会課題の大きさに打ちのめされそうになることもありますが、私たちの一つ一つの行動から子どもたちに変化を起こし、地域に変化を起こし、社会に変化を起こすことが大切だと改めて感じています。

一人一人が子どもたちを思い、その力が集結し、みなさんとともにアフリカへ支援を届けることができました。心より感謝申し上げます。

代表理事
門田瑠衣子

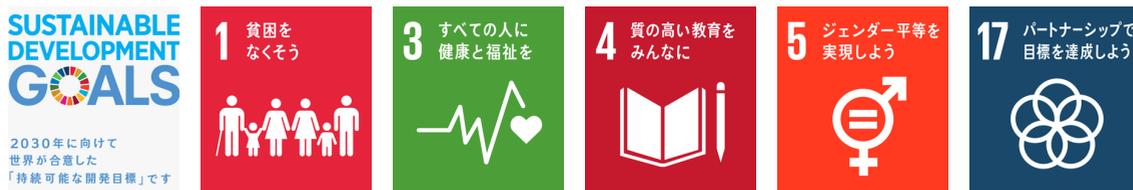


PLASのビジョン

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します。

PLASのミッション

アフリカで取り残される孤児や貧困家庭の子どもたちが前向きに生きられるよう、地域社会と共に課題解決に取り組みます。



PLASはSDGsに取り組んでいます。

アフリカでの活動一覧

国

プロジェクト

ウガンダ

- カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE)4期
- HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)2期
- HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通じた生計向上とキャリアプランニング支援事業(SMILE)
- HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE)2期、3期

ケニア

- エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業 (FLOWER) 草の根技術協力事業 (草の根パートナー型)
- ケニア共和国エイズ孤児を抱える貧困家庭の養鶏による生計向上とキャリアプランニング支援事業 (HOPE)

活動のハイライト

2022年の成果



33

店舗

のカフェ/サロンが開業

CAFE事業・BRIGHT事業でこれまでに開店したカフェやサロンは33店舗になりました。



100

%

の家庭が収穫可能に

ケニア在来野菜の農業支援を受けて、全家庭が野菜を収穫できるようになりました。



200

人

の子どもたちを新たに支援

養鶏による家庭の生計向上と保護者・子どもへのカウンセリングの2本柱で支援を始めました。

151

回

の研修を実施

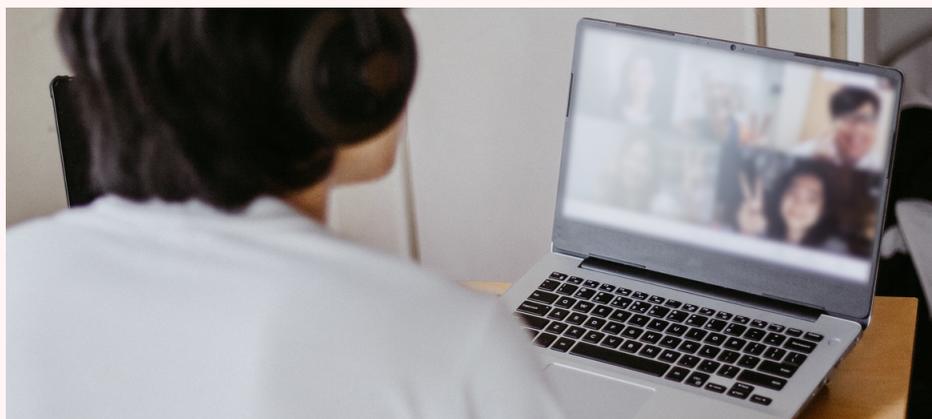
農業、栄養、調理、マーケティング、美容師、チームビルディング、カウンセリング等様々な研修を実施しました。



21回

のイベント開催

オンラインで、イベントを21回開催し、世界各国、全国からご参加いただくことができました。



51人

チャリティーオークションにご協力頂きました

2022年度は通年でチャリティーオークションを開催し、のべ51名の方にご協力いただきました。みなさまからサイン色紙や私物など貴重なお品物をご提供いただき、約519万円を調達。現地に支援を届けることができました。



スタッフ・役員一覧

アフリカと日本で共に活動する仲間たち

PLAS日本事務局・役員



代表理事
門田瑠衣子



事務局長・理事
小島美緒



海外事業担当
山口和美



海外事業担当
藤原祐希



国内総務担当
藺森絢子



インターン
藤田茜



インターン
都留健司



インターン
安村凜



インターン
井上美雨



インターン
奥田彩乃



インターン
加藤冬華



インターン
加藤唯



インターン
池上愛



インターン
中西萌香



インターン
田中瑛子



インターン
藤井美咲



インターン
藤井美有



インターン
入内島朋実



インターン
豊田萌



インターン
野村朋貴



インターン
船越桜



理事
赤尾邦和



副代表理事
一宮暢彦



理事
鶴見和雄



理事
横山裕司



監事
矢崎芽生



監事
藤本俊明

PLASケニア事務所



トビアス



パメラ

ウガンダパートナー団体カユンガ



代表
ジョイ



秘書
フィレスター



会計担当
ジェシカ

ケニアパートナー団体ビアジェンコ



代表
ベンソン



コーディネーター
パンボ



カウンセラー
ポウリン



カウンセラー
ベナード



カウンセラー
エマ



カウンセラー
ヒラリー



カウンセラー
ダン



農業専門家
ケネス



会計士
リスパー

ウガンダパートナー団体ヒーレコーズ



代表
ムシシ



CAFE担当
エバリン



CAFE担当
ユダヤ



BRIGHT担当
ナマタ



BRIGHT担当
シシー



BRIGHT担当
ベティ



SMILE担当
ジャリア



SMILE担当
マヤンジャ



SMILE担当
シルビア



会計担当
ハジャラ



ケニアでの活動

子どもたちにより良い教育と希望を

私たちが活動するホマベイ県ビタ準郡は、ケニアの西部に位置し、ビクトリア湖に囲まれた地域です。

新型コロナウイルスが収束し、人々の生活はほぼ元通りになりました。しかし、ウクライナ戦争や世界経済の影響で物価が高騰しており、生活に影響を与えています。人々の生活の足になるバイクや車のガソリンは、コロナ前と比較して2倍以上に高騰。主食のとうもろこしをはじめ、食品や生活必需品は1.5倍ほど値上がりしています。

ケニアではCBC（Competency-Based Curriculum）という新しい教育制度が始まり、受益者の子どもは新しい進学のテストを受けました。しかしCBCは保護者の金銭的負担が大きいと言われています。

人々の生活は苦しくなっていますが、PLASの支援が人々の助けとなり希望となれるよう、粘り強く事業を実施しています。

将来は中等学校の先生になりたいな。
大きくなったら、隣のウガンダに障がいがある子どもたちの学校をつくりたい。

そしてお母さんに大きな家を建ててあげるのが夢なんだ。

ヘレンちゃん（13）

FLOWER事業

JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）

エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業（FLOWER）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：農業と植林を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 50家庭
- 期間：2020年4月～2024年8月



子どもと保護者へのカウンセリングが終了し、本格的に生計向上の活動に移りました。庭に縦横30mのフェンスを立て、その中で作物を育てます。フェンスがあることで、ロバや牛などの家畜から作物を守ることができます。研修では農業と植林を組み合わせたアグロフォレストリーの方法を学び、農地の作り方、畝の立て方、たい肥の作り方、害虫対策などを講義と実践を通して習得しました。水汲み用のロバも配布し、雨が降らない乾季でも湖から水を汲んで農業が実施できるようにしています。現在は農業専門家を中心に、各家庭のモニタリングで農業指導を行っています。

現地でよく植えられているのは、ケール、モロヘイヤ、ササゲ、パパイヤ、マンゴー、バナナ、サツマイモ、キャッサバ、カボチャなど。畝建てや肥料づくりを工夫して保水力を高めることで、乾季でもたくさんの野菜が育っており、収穫と収入を得ることができています。

HOPE事業

ビアジェンコと始めた新事業

ケニア共和国エイズ孤児を抱える貧困家庭の養鶏による生計向上とキャリアプランニング支援事業（HOPE）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：養鶏を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 15家庭
- 期間：2022年3月～2024年4月

パートナー団体VIAGENCOと、新たに養鶏事業を立ち上げました。養鶏は農業より体の負担が少なく、成功すれば大きな利益が見込まれます。FLOWER事業と同様カウンセリングから始まり、その後養鶏による生計向上へと移行します。カウンセリングによって、保護者は子どもの声に耳を傾けるようになったり、宿題を見てあげるようになるなどの変化が生まれました。各家庭に鶏舎を建設し、研修を行った後、本格的に養鶏ビジネスをスタートします。





ウガンダでの活動

「わたし」は「わたし」のままで、かっこいい

PLASのウガンダでの活動地域は、ルウェロ県とジンジャ県の2つ。

ルウェロ県は首都カンパラから北に車で1.5時間ほどの場所にあり、44万人が暮らしています。電気へアクセスできるのはわずか9%。人口の70%は農業に従事し、若者の失業率は64~70%です。ジンジャ県は、首都カンパラから東に車で3時間ほどの場所にあり、ナイル川の源流の地としても知られています。農業が盛んな地です。

HIV陽性のシングルマザーは、5人~10人の子どもや孫を1人で育てている人も少なくありません。HIV/エイズへの差別もあり、またほとんどが小中学校を中退していることから、安定した職に付けず、不安・ストレスレベルが高いことが事業前調査で分かっています。事業に参加し、菓子や調理のレシピ、接客など新しいことを学び、自分にもできるのだと実感し、実際にそれらを使って収入を得ることで、しだいに参加者がいきいきと生活を語りだす場面が増えていきます。

CAFEは、農作業しかしてこなかった私を、ビジネスパーソンにしてくれた。気持ちが全然違う。

忙しくても、ポケットにお金が入る。子どもの薬が買える。教育費が払えたので、子どもたちは学校から追い返されない。

ジャスティンさん(40)

CAFE事業

「ビジネスパーソンである」誇りを手に入れたママたち

カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：カフェビジネスを通じた生計向上
- 受益者：HIV陽性シングルマ12名（4期）
- 期間：2021年4月～2022年12月（4期）

2021年4月から開始したCAFE事業の第4期。4つの村から11人のシングルマザーが参加しています。ビジネスをしたことのないママたちは、まず接客や収支計算から研修をスタート。2022年9月までに追加研修を含め、チームビルディング、オーブンを使ったケーキ作り、調理・栄養研修、ジュース研修をこなしました。2021年秋からは路上でパラソルの下簡易カフェを開店し、2022年からは店舗での開店に移りました。

4期目となった今CAFE事業では、縦のつながりも見えました。スナック研修の講師に招かれたのは、CAFE事業2期生のアネット。実際の接客のコツなどを交えながら研修講師を務めました。2022年9月に開かれた料理自慢大会には、3期のナチャが参戦。いずれもカフェ経営のコツや困ったお客への対応などを先輩に聞けるよい機会となりました。



2022年9月にはこれまでの集大成として、料理自慢大会が開かれました。各カフェごとに工夫をこらした料理を作成して持参。レシピやこだわった点などをプレゼンし、量・味・見た目・ママたちの衛生・会計能力で審査されます。優勝は、3時間かかるバナナの蒸し煮を選択しバイクで1時間かかる道を料理をかかえ朝7時半には事務所に着いていたマクルビタチーム。努力が実った勝利でした。

SMILE事業

子どもたちが将来の夢を、描けるように

HIV陽性の脆弱な家庭に対する農業を通じた生計向上とキャリアプランニング支援事業(SMILE)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：農業を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：HIV陽性者家庭の子ども40名、保護者40名
- 期間：2021年4月～2022年6月、2022年9月～2023年1月（フォローアップ）

2021年4月から開始したSMILE事業。2022年6月までに全保護者・子どものカウンセリングと農業研修が終了し、同年9月からはカウンセラーによる家庭訪問と農業オフィサーによる農業アドバイスのフォローアップ期間に入っています。2022年2月に行われた、地元の異なる職業人を招いてのキャリアトークでは、子どもたちから「わたしも看護師になりたい」「校長先生になりたい」といった声や、「中学校に行きたいので理科をもっとがんばる」といった声が出るなど、進学・キャリアについて具体的な夢を持ち始めた様子が見られました。

空と大地と生きる

自然と共存するたくましさ

ウガンダの現地語では、日付は朝6時に変わります。朝6時が今日の0時。おひさまとともに一日が始まるのです。事業を行うラストワンマイルでは、インフラが整っていないことがほとんど。その代わりそこで暮らす人々は、雨が降れば大地を耕し、大雨になれば雨宿りしつつお茶を沸かし、わずかな木陰を見つけ休憩します。毎日を空と大地と共存してたくましく生きる彼らのしなやかさを損なわないよう、これからも「あげる」支援ではなく彼らと共に「つくる」支援をしていきます。

藤原祐希
海外事業
アシスタント
マネージャー





PLASとの連携

広がる支援

SMILE事業では、PLASの支援を通じて、地域住民に農業実践と貯蓄を通じた教育支援を実施することができました。対象者は40人の保護者と40人の子ども、計80人でした。

BRIGHT事業を通じては、HIVと共に生きる非就学の若者80人に、ヘアドレッシングやコスメティックといった職業技能の研修を行いました。また、ビジネスマネジメント研修や貯蓄の訓練も行いました。

ムシシ
ヒーレコーズ



BRIGHT事業

ユースが手に職をつけ、自立できるように

HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)

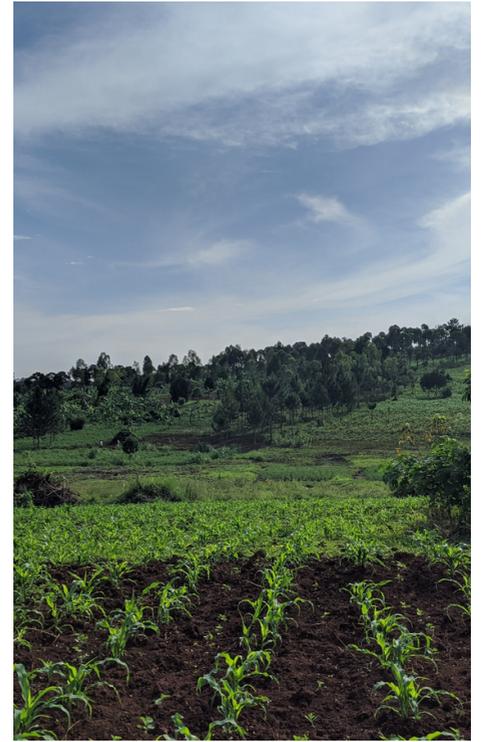
- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：HIV陽性者ユースのビジネススキルを通じた生計向上
- 受益者：HIV陽性者ユース 30名
- 期間：2021年10月~2023年3月（2期）

ルウェロ地方の若者（18歳～30歳）の非雇用率は64～70%と大変高い状況にあります。BRIGHT事業では、HIV陽性の18歳から29歳のユース30名を対象に、複数の技術研修を実施し、グループでのモールビジネスを開始してユースが自立するサポートをしています。

2021年10月から始まったBRIGHT2期では、スナック作り、紙袋作り、ネイル、ヘアドレッシングの4つの技術習得を目指し研修を実施しました。各村のニーズとユースの得意分野とで複数技術を合わせてビジネスを可能にするためです。同時に、研修時に設けられたチームワーク作りの時間は、グループビジネスを始めた時にチーム内で有効なコミュニケーションが取れることを狙いとしています。紙袋作りの研修後に失敗作の紙ごみを使用して行ったペーパータワー作りでは、どのチームが一番高いタワーを作れるかを競いました。「他のチームがマネした。商売も同じかも」「チームメイトの意見を聞くことが大切だった」など、精神面でも徐々にビジネスを行う準備を始めました。

2022年10月現在、10チームすべてが実店舗での営業を開始しています。今後は各店舗の売り上げ、チームワーク、商品のモニタリングを行い、ユースの完全な自立へ向けて、きめ細やかなフォローアップをしていきます。





SHINE事業

農業を学び、仲間を得て、生活が変わる

HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE) 2期、3期

- 地域：ウガンダ共和国ジンジャ県
- 目的：農業技術を得て、農業で生計を立てること
- 受益者：HIV陽性者 40家庭（2期、3期）
- 期間：2020年1月～2023年3月（2期）
2022年1月～2023年12月（3期）

HIV陽性者が自分たちで助け合うために地元有志で集まり始めた組織、カユンガ。2022年度はSHINE 2期と3期合計40名を対象に事業が行われました。メンバーのほとんどはひとり親の女性で、子どもや孫、親戚の身寄りのない子などひとりで5～10人ほど面倒を見ています。

農業研修、また栄養研修を実施し、グループで農地を借り農業を始めました。畑で採れた野菜や穀物は自家消費してメンバーと家族の栄養状態を改善するほか、余剰分は売り、生活必需品購入や、毎月のグループ貯蓄に充てています。前雨季のグループ貯蓄はペン、ノート、えんぴつなど子どもたちの新学期の文房具準備に使われました。

写真はおよそ2.5エーカーのSHINE 2期の畑です。昨年の収穫物を売ったお金から今年度の農地代と植える植物の種代を捻出できました。

植えるものはメンバー間の話し合いで決められます。今雨季は世界情勢の影響で食料品価格が高騰していることから、家族のおなかに溜まりやすく栄養価の高い、とうもろこし、大豆、さつまいもを植えています。

大豆は一足先に収穫され、空いた土地には在来葉物野菜のゴベが植えられ、こちらは売りにも出すことでお金に変えることができます。

地域のシングルマザーのチカラに

課題は物価・借地料の上昇

カユンガは、PLASと協働しながらシングルマザーの支援を行っています。今シーズンは、野菜の収穫、そしてサツマイモ、ヤマイモ、キャッサバ等の植え付けも行いました。農業については農業オフィサー、栄養についてはヘルスオフィサーから指導を受けています。事業はうまくいっており、PLASの支援に感謝しています。しかし、物価や借地料の上昇が課題になっています。また、事業中に亡くなってしまったメンバーもいましたが、支え合いながら事業を進めています。



ジョイ
カユンガ代表



今後の展望

PLASメソッドの横展開・新規パートナー団体の発掘

学校に通うHIV/エイズに影響を受ける孤児や貧困家庭に暮らす子どもが就学や就労の選択肢を増やすためのプログラムを、PLASメソッドと呼んでいます。これは「ライフプランニング支援」と「生計向上支援」を組み合わせたPLAS独自のプログラムです。

ライフプランニング支援を受けた母子は進学や将来を具体的に考えることができるようになり、保護者は経済的な自立や子どもの将来のための教育費の支出に積極的になります。そのタイミングで生計向上支援を受けることで、オーナーシップと強い意志をもって貧困から経済的自立へステップアップしていくことができます。

現在は、カウンセリングや生計向上の各種マニュアルを整備すると同時に、現地の地方行政とPLASメソッド普及の会議を実施しています。そして今後、ウガンダ・ケニアともに新しいパートナー団体と協働を開始し、PLASメソッド事業を他地域でも展開していく予定です。

私の一番の役割、そして夢は、実の両親からも取り残されてしまった子どもたちに希望を与え続けることです。

教育のことだけでなく、社会に出ていける希望を与えたいのです。

パンボ VIAGENCO
コーディネーター

新たな社会課題への取り組み

多様な選択肢を持ち、自分の人生を自分で決めることができるように

ケニアの学校に通う子どもの望まない妊娠を防ぐための保健推進プロジェクト（名称仮）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：学校に通う子どもの望まない妊娠を防ぐ
- 受益者：学校に通う17歳以下の子ども 15～20名（仮）
- 期間：2023年4月～2026年3月（仮）



ケニアでは、10代の子ども・若者の5人に1人が妊娠・出産を経験しています。事業地のホマベイ郡における10代の妊娠率は33%であり、ケニア全47郡のうち2番目に高い数値を示す地域です。

体が未熟な状態での10代の妊娠は、母子ともに合併症や死亡のリスクが高くなります。また、多くの妊娠した女の子は学校を中退せざるをえず、これは子どもが中等学校を中退する一番の原因となっています。

子どもの望まない妊娠のリスクを低下させるためには、子ども自身が正しい知識を身に付け、自分の健康と将来を守るための行動をとれるようになることが重要です。現地で行った若者へのインタビュー調査では、避妊に関する知識の少なさや、避妊法を使用することへの抵抗感が浮き彫りとなりました。

子どもたちが必要な教育を最後まで受け、よい職を得て経済的に自立していくためにも、PLASではこれから望まない妊娠という社会課題に新たに取り組んでいきます。

子どもたちが望まない妊娠を回避できる知識と姿勢を持ち、そのための行動を選択できるようになることを目指し、現在事業を計画しています。

PLASと協働で実施したキャリアカウンセリング

地域住民に明るい変化、ご支援に感謝

私たちはすでにカウンセリングを実施していますが、さらなる努力が必要であると考えています。新しく始まる事業がより多くの子どもたちに届き、10代の妊娠件数が減少するよう願っています。

また、これまで実施したキャリアカウンセリングは、50人以上のせい弱な子どもたちの生活を変えました。カウンセリングで、地域課題であった子どもたちの低い自己効力感、保護者の教育に対する姿勢が改善。また、保護者と子ども間のコミュニケーションも促進されました。みなさまのご支援で事業を成功させることができました。



ダン
ピアジェンコカウンセラー

新事業を始めるにあたって

PLASと自分の新しい挑戦

PLASはビジョン・ミッションを2020年に変更し、エイズ孤児だけでなく様々な理由で取り残されている子どもたちを支援することを決めました。プロジェクトチームが発足し、支援が行き届いていない子どもたちについて1年近く調査を行い、新たに「望まない妊娠」という課題に取り組むことになりました。ゼロからつくる事業はチャレンジングではありますが、新しいインパクトを地域に起こせることにワクワクしています。これからさらに発展していくPLASにご期待ください！



山口和美
海外事業アシスタントマネージャー



国内での活動

NFTチャリティオークションで新たな挑戦。新スタッフも参画。

新たな取り組みとして、日本のNGOとして先駆けてNFTチャリティオークションを実施しました。NFTとは、ブロックチェーンを基盤にして作成された代替不可能なデジタルデータです。

PLASでは、NFT化されたデジタルアート作品をチャリティオークションとして出品し、収益が寄付される、日本のNGO主催では初めてとなるNFTチャリティオークションプロジェクトに挑戦。クリエイターや作品ご提供者のみなさまのお力添えで第一回目は6,389,903円、第二回目は302,818円のご寄付となりました。

社会課題の解決にテクノロジーを活かして取り組む新たな挑戦を、これからも続けていきます。

また、国内事業を担当する新たな職員・藺森（いもり）が入職。会計・総務・労務をはじめとする国内の基盤強化を担うメンバーが参画したことで、ガバナンスと組織強化への注力が可能となりました。

あたたかさが集まる場所

PLASでインターンを始めて

今年の夏からインターンを始め、あたたかく快活なPLASのみなさんに支えられ、楽しくやりがいを感じながら業務を進めることができました。また、イベント開催時やSNSに寄せられる支援者の方々からのメッセージを目にするたびに、心が温まり、多くの人が応援してくださる活動に携われている喜びを感じています。これからもPLASが、人々のあたたかさが集まる場所であり続けられればよいとインターン生ながらに思っています。

藤井美有
インターン



チャリティーオークション

51名のみなさまにご協力いただきました！

今年度は通年でチャリティーオークションを実施、合計51名の方にご協力いただき、5,189,894円を現地への支援としてお預かりすることができました。多くのご協力に感謝いたします。

【全ご協力者様（順不同・敬称略）】

甲斐拓也、櫻川めぐ、草刈正雄、八代亜紀、潮田玲子、窪塚洋介、高橋健介、中村祥子、シゲタサヤカ、真島ヒロ、林家たい平、平川大輔、一ツ山チエ、佐藤拓也、アグリム、TAa、坂本冬美、福原みほ、リュウジ、蟹江杏、増田明美、滝田栄、杉山愛、アインシュタイン、山口茜、三田紀房、志田千陽、松山奈未、高橋ヒロム、関根勤、萩本欽一、マギー、パッケンマッケン、有森裕子、佐藤琢磨、加藤登紀子、隈研吾、きくちゆうき、渡辺真理、きむらゆういち、吉永小百合、高橋留美子、石田純一、尾木直樹、七野ワビせん、田中敦子、はまのゆか、羽生善治、坂木原レム



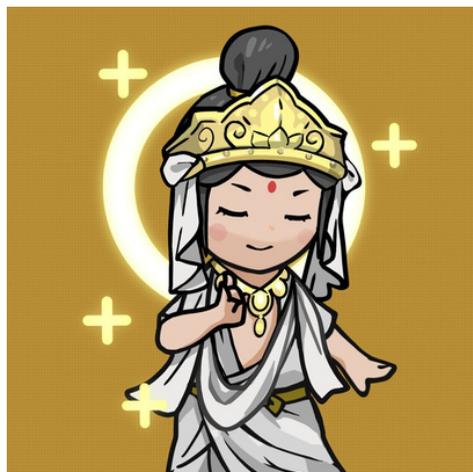
NFTチャリティーオークション

“CryptoNinja”作品を関口メンディーさんが落札し寄付へ

2021年10月18日～24日の期間、NFT化されたデジタルアート作品をチャリティーオークションとして出品し、収益が寄付される日本のNGO主催では初めてのNFTチャリティーオークションプロジェクトを開催しました。第一回目はイケハヤ氏による日本を代表するコレクションNFT“CryptoNinja”より作品提供を受け、14ETH（当時レートで約660万円）で関口メンディーさんによって落札されました。

2022年8月には第二弾を開催。2022年度の1年間で、7名のクリエイター・アーティストのみなさまにご協力いただきました。

【全ご協力者様（順不同・敬称略）】
イケハヤ、Tigerclove、NIKO24、Etherwaifu、うじゅうな、おにぎりまん、Ame-chan



大きな成果

ファンドレイジングに新しい風を

CryptoNinjaを応援してくださるみなさまの力で、非常に大きな成果を出すことができましたと感じています。

今回の成功が、NPOのファンドレイジングに新しい文化をもたらすことを期待します！

イケハヤさん

NFTで支援できる

NFT落札がアフリカの寄付へ

素敵な企画に参加させてくださり、ありがとうございました！

僕もナイジェリアと日本のハーフなので、こういった形でアフリカで困っている方々の支援ができること心から嬉しく思います！！

関口メンディーさん

イベント

オンラインでつなぐ、ラストワンマイルの支援を日本から

22年度は定期イベント9回と、ご支援者様へのサクスイベント1回の計10回の主催イベントをオンラインで開催し、132名の方にご参加いただきました。

定期イベントでは、PLASの活動紹介をはじめ、「SDGs」や「アフリカビジネスと国際協力」など特別ゲストをお迎えしたタイムリーなイベントを開催。

年1回のサクスイベントでは、現地との中継でパートナー団体のスタッフと対話する時間や、参加者とスタッフで交流するワークショップなどを実施しました。

また、インターン生が主催するご支援者様向けのクローズドイベントも11回開催し、各事業のプログラム設計や現場の裏舞台など、ご支援者様に向けたより詳しいお話をお伝えする機会をお届けしました。

砂地に水が染み込むように

ケニアでの伴走支援を終えて

ケニアで、短い間ですがトレーニングをさせていただきました。カウンターパートのみなさんも含めて、試行錯誤しながら伸びていく、その伸び代が素敵です。僅かな間でしたが、事務所で、フィールドで、こちらが理解してほしいなと思っていることを、砂地に水が染み込むように吸収してくれるのがわかって、嬉しかったです。また一緒にフィールドに行ける機会があるといいなと思いました。これからが本当に楽しみです。

和田信明さん
認定NPO法人
ムラのミライ



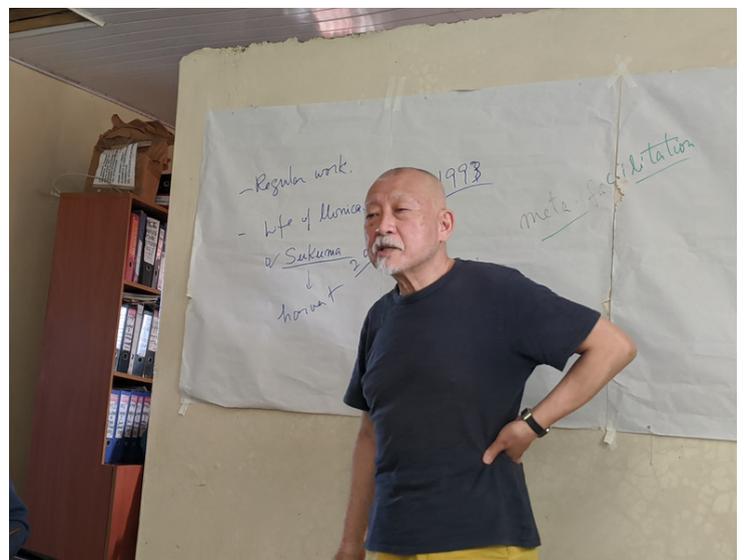
人材育成

「メタファシリテーション」による能力強化

2020年度から国際協力財団さんによりNPO法人ムラのミライさんが実施する「メタファシリテーション講座とコンサルティングによる住民主体型プロジェクト形成のための伴走支援事業」の助成を受け、PLASスタッフとケニアの現地パートナー団体ビアジェンコのスタッフが受講しています。

メタファシリテーションでは、相手を尊重しながら事実質問を重ねることで、コミュニケーションの質を上げ、相手が自ら解決策に気づく後押しをします。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けこれまではオンライン受講でしたが、2022年はムラのミライ創設者の和田信明さんにケニアまでお越しいただき、パートナー団体スタッフへの対面研修が実現。大きな刺激や学びを得られた2日間となりました。



法人連携

多様な連携でひろがる可能性

既存の法人様に加え、新たに複数の企業・団体様にお声かけをいただき、様々な方法での寄付・ご支援をいただくことができました。

【支援/協力頂いた企業・団体様（順不同/敬称略）】

株式会社バリューブックス、株式会社GME、株式会社 BORDERLESS JAPAN、株式会社STYZ、特定非営利活動法人 レッドリボンさっぽろ、カトリック高輪教会、freee株式会社、ヤフー株式会社、ソフトバンク株式会社、かみひとねっとわーく京都、パッケージアート株式会社、ピープルポート株式会社、株式会社ブギ、株式会社PR TIMES、エネラボ株式会社、株式会社ミッションズ、特定非営利活動法人ナントゴ・プロジェクト

子どもたちのことを絶対忘れない

「チャリボン」を通じた支援

2014年7月から本を寄付する仕組み「チャリボン」をご利用いただいています。長い間、本当にありがとうございます。

PLASさんの活動報告を見ると、いつも「星の王子様」の前書きを思い出します。「おとなはだれでも、もとは子どもですよ。（みんな、そのことをわすれますけど。）」つらい状況にある子どもたちのことを絶対忘れない団体がこの日本にあることを誇りに思います。

廣瀬聡さん
株式会社
バリュー
ブックス



助成金・補助金

現地のニーズと組織強化にご支援いただきました

【助成金・補助金一覧（順不同）】

国際協力財団「国際協力 NPO 助成 成長型事業 ムラのミライ・伴走支援事業」／フェリシモ 地球村の基金／公益信託アフリカ支援金／庭野平和財団／JICA草の根技術協力事業／連合・愛のキャン「中央助成」／AINプログラム | 「食と健康」国際協力支援プログラム



前向きに生きる

PLASで学んだ”Positive Living”

PLASは取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指すというビジョンを掲げています。この中には、PLASに関わるすべての人がつながって、前向きに生きることができるように、という想いも込められています。それを身をもって感じたPLASに入職してからの1年でした。

国内事業に携わる中で、PLASの活動に賛同して応援して下さる方々に出会うことができました。また、現地からは「私たちはPLASの支援でこんなに変わることができた！」と喜びの声が聞こえてきました。気が付くと、ああ本当に良かった、嬉しい！と私自身が前向きな気持ちになれるのです。 ”Positive Living” (前向きに生きる) - この言葉をこれからもたくさんの人に届けていけるよう、支援者のみなさまと現地の人々とのつながりを大切にしながら、楽しく活動していきたいと思えます。



蘭森 紬子
国内総務担当



多くの仲間と共に

PLASを支える仲間たちの声

PLASの活動には多様なバックグラウンドの方たちが関わっています。ご支援者のみなさまをはじめ、理事やインターン生などさまざまな関わり方で活動に携わっていただいています。2022年度もたくさんのご支援・お力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。



インターンでイベントを通じてPLASの活動を広めていく

大学のゼミや留学でアフリカについて学ぶ機会が多かったので、もっと関わりたいと思いPLASに入りました。PLASはインターン生にも裁量権が十分にあり、様々な業務を任せられるのでとても充実しています。今後もPLASが行っていることが十分に伝わり、共感してもらえるようなイベントを作っていきます。(インターン 野村朋貴)



イベントへの参加をきっかけにサポーターに

数年前のイベントをきっかけにサポーターとなりました。取り組みへの共感はもちろんですが、PLASで働いている方たちの想いやお人柄、真摯に活動に取り組まれている姿に感動したことが、一番の応援の理由です。今後も寄付を通じてPLASのみなさまに想いを託し続けたいと思います。(マンスリーサポーター 内藤日香里さん)



支援者とっても透明性の高い活動

私は2013年からマンスリーサポーターに参加しています。PLASさんの魅力は透明性の高さやスタッフさんとの関係がとても親しみやすいところです。定期的に行われる説明会では現地の報告や支援内容、現状の問題など詳しく教えてくれて自分の寄付が有効的に使われているのでとても嬉しく、また安心できます。これからも関わりつづけて行きたいと思っています。(マンスリーサポーター 松田裕美さん)

活動計算書

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
賛助会員受取会費	30,000	
正会員受取会費	90,000	120,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金		19,567,261
3. 受取助成金等		
受取民間助成金		3,695,350
4. 事業収益		
事業収益		16,149,700
5. その他収益		
受取利息	1,867	
雑収益	621,332	623,199
経常収益計		40,155,510
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	15,191,055	
法定福利費	2,100,075	
人件費計	17,291,130	
(2) その他経費		
減価償却費	8,793	
広告宣伝費	46,219	
福利厚生費	41,665	
会議費	49,280	
旅費交通費	3,202,720	
通信運搬費	105,660	
消耗品費	373,965	
業務委託費	13,729,253	
支払手数料	481,653	
地代家賃	126,834	
印刷製本費	5,489	
租税公課	2,377,000	
研修費	44,515	
保険料	167,906	
雑費	32,276	
その他経費計	20,793,228	
事業費計		38,084,358
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	1,049,726	
法定福利費	150,558	
人件費計	1,200,284	
(2) その他経費		
会議費	6,320	
租税公課	6,900	
旅費交通費	3,820	
通信運搬費	42,112	
消耗品費	9,537	
業務委託費	341,000	
支払手数料	496,700	
地代家賃	264,000	
印刷製本費	32,210	
諸会費	55,000	
雑費	121,861	
その他経費計	1,379,460	
管理費計		2,579,744
経常費用計		40,664,102
当期経常増減額		-508,592
税引前当期正味財産増減額		-508,592
法人税、住民税及び事業税		967,900
当期正味財産増減額		-1,476,492
前期繰越正味財産額		12,389,962
次期繰越正味財産額		10,913,470

「受取寄附金」には、マンスリーサポーターや個人からの都度寄付、法人寄付などが含まれます。

「事業収入」には、「JICA草の根技術協力事業」の資金が含まれています。2021年度まで受取補助金に仕分けられていましたが、2022年度から事業収入となっています。

「事業費」にはアフリカでの支援活動と日本での啓発活動の両方が含まれます。

「業務委託費」は、主に現地パートナー団体と共にすすめる支援事業に係る費用です。2022年度後半は円安の影響も大きくありました。

「租税公課」には支払消費税が含まれています。

経常支出に占める管理費率は大幅に削減され、2022年度の管理費率は6.3%に。リモートワークに移行したため2021年度から管理費率が減少しています。

「支払手数料」には海外送金や寄付決済の手数料が含まれます。

貸借対照表

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	14,468,208		
流動資産合計		14,468,208	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品	96,728		
有形固定資産計	96,728		
固定資産合計		96,728	
資産合計			14,564,936
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,028,775		
未払法人税等	967,900		
未払消費税等	1,492,900		
預り金	161,891		
流動負債合計		3,651,466	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			3,651,466
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		12,389,962	
当期正味財産増減額		-1,476,492	
正味財産合計			10,913,470
負債及び正味財産合計			14,564,936

予算・実績対比

項目名		予算	決算	予実%	
経常収益	会費	170,000	120,000	70.59%	
	寄付	18,714,400	19,567,261	104.56%	
	助成金	2,231,884	3,695,350	165.57%	
	JICA草の根	15,029,500	16,026,000	106.63%	
	事業収益	268,000	123,700	46.16%	
	受取利息	0	1,867		
	雑収入	0	621,332		
	経常収益計	36,413,784	40,155,510	110.28%	
経常費用	事業費	人件費	15,453,600	17,291,130	111.89%
		その他経費	13,307,970	20,793,228	156.25%
		事業費計	28,761,570	38,084,358	132.41%
	管理費	人件費	1,200,000	1,200,284	100.02%
		その他経費	3,406,856	1,379,460	40.49%
		管理費計	4,606,856	2,579,744	56.00%
	経常費用計		33,368,426	40,664,102	121.86%
経営増減額		3,045,358	10,913,470	358.36%	

みなさまのご支援が原動力に

新たな事業展開や組織基盤に取り組んだ1年

2022年度は経常収益が初めて4,000万円を超えました。寄付収入は前年比1.4倍の1,956万円、対予算達成率105%となりました。また、チャリティオークションによるご寄付は1,179万円に。多くの個人・法人のみなさまにご支援・応援いただき心より感謝申し上げます。

経常費用においては、ケニアで新たな事業を開始したことや人事制度改革で待遇改善に取り組んだことで前年度比121%となりました。取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指すために、新たな事業展開とともに、職員が安心して働ける組織基盤の強化にも取り組んでまいります。



事務局長 小島美緒

Thank You



ご支援、ご協力をお願いします

サポーター

月1000円～の寄付
で子どもたちを支
援するマンスリー
サポーターにご支
援・ご参加をお待
ちしています！



SNSでPLASとつながる



特定非営利活動法人

エイズ孤児支援NGO・PLAS

<https://www.plas-aids.org/>

〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402号室
03-6821-1758 info@plas-aids.org

理事：門田瑠衣子（代表理事）、一宮暢彦（副代表理事）、赤尾邦和、小島美緒、鶴見和雄、横山裕司、藤本俊明（監事）、矢崎芽生（監事）
設立：2005年12月

